

参考資料 4

大学院における社会人等の免許取得に資する新教育課程 ワーキンググループで検討すべき主な論点

(教員養成部会論点整理より抜粋)

3. 多様な専門性や背景を有する社会人等が教職へ参入しやすくなるような制度の在り方

✓大学院段階における教職課程の在り方について、多様な学部出身者や社会人経験者が新しいプログラムを履修することによって標準的なレベルの免許状を取得できるような仕組みを考えていく必要があるのではないか。

(4) 大学院における学修により教員免許取得可能な仕組みの構築

- 教員免許がない状態で大学院に入った場合、大学院の勉強をしながら、もう一度学部で学士課程の教職の授業も履修しなければならず、3年間程度の学修が必要になるなど様々な課題が出てきている。大学院段階における教職課程の在り方について、新しいプログラムを履修することによって標準的なレベルの免許状を取得できるような仕組みを考えいく必要があるのではないか。
- 社会人であっても学びやすい履修の在り方、社会人の専門性について教員免許との関係性、修士号授与との関係性、質の担保と多様性担保の両立などを念頭に置きつつ、具体的な制度設計について慎重に議論を進めるべきではないか。
- 大学院における免許取得の仕組みは、あくまでも入職ルートの多様性と現場での教師人材の多様性担保の視点から、多様な学部出身者や社会人経験者の参入に資する制度として考える必要があるのではないか。

【当WGで議論すべき論点】

1. 大学院における新しいプログラムの履修により、取得できる免許状とはどのようなものか。
2. 当該新プログラムにおける学修について、大学院修士課程の学修との関係も含め、どのような形で設置するべきか。
3. どのような学生を対象とした制度設計とすべきか。
4. 当該新プログラムにおいて学ぶ上での金銭的・時間的負担をどのように考えるか。
5. 当該新プログラムにおいて免許状を取得した者の採用との関係はどうあるべきか。